※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

挨　拶

謝　　辞

被表彰者代表
津　田　　寿

皆さんこんにちは。ただいま表彰を受けました津田でございます。本日はどうもありがとうございました。

ところで，私のようなリタイヤした人間がここでご挨拶すると浦島太郎になるのでと，強く事務局に辞退を申し上げたのですけれども，名簿のトップに名前が挙がっている，それから，最年長だから慣例によってやっていただかなければいけない，と言われまして，引き受けさせていただきました。後で気づいたのですけれども，最年長だからといって，挨拶するという慣例はどうもなかったようでございます。しかし後の祭りでございますので，まことに僭越ではございますけれども，しばらくお付き合い願います。

のっけから私ごとでまことに恐縮でございますけれども，私は，昭和40年代の初めに夢を膨らませて関西のメーカーに入社しました。そして，希望どおり研究開発部門に配属になりまして，最初に携わった仕事が特許でした。その当時，昭和40年代の初めと言えども，経営者が特許は大事や，特許は大事や，とこう言うものですから，それにほだされて一生懸命特許の仕事をしたつもりです。ところがそのうち，特許の上にいっぱい大事なものがあるんです。ふと後ろを振り返ってみると，その大事な特許の後ろにどうも何もない。今から思ってみると，まさにアンチパテントの時代だったのかなと思います。

その後，新商品の開発に携わり，以来20年余り新製品の開発と，それの事業化の仕事に没頭をしておりましたが，定年をあと数年ぐらいに控えたころに，突然知財部へ行けと，こう言われました。さて，知的財産といったらたしか特許のことだったな，何と因果なことかいなと，こう正直思いました。しかし，まあ特許部へ行って，のんびり過ごせばいいかと思っておりました。

ところが時代はすっかり変わっておりまして，いわゆるプロパテントの時代になっておりました。のんびりできるどころではございませんでした。先ほど言いました大事な特許，これは本当に大事になっていました。そんなこともございまして，その数年間，非常にやりがいもあって，楽しい仕事ができたなと思いますけれども，それにも増しまして，この協会に携わらせていただき，皆さんともおつき合いをさせていただいて，更に定年後の今も，知財に縁のあるところで活動させていただいている次第です。

考えてみますと，私は会社をリタイアしまして３年になりますけれども，今さらながらに気づいたことがございます。皆様方は，多分とっくに気づかれている，承知をされていることだと思いますけれども，私にとっては非常に印象深く感じていることです。それは，皆様方の会社でもそうで

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

しょうが，企業において定年後，知財ほど働き場所の多い職種はないのではないかなということです。働き場所が多いということは，それだけ経営から知財に対するニーズがたくさんあるんだなと，そんなことを今つくづく感じているところでございます。そして，そう考えてみると，これからも，この知財協が果たさなければならない役割が重大であると，そんなふうに，気のつくのが遅いかもしれませんけれども，つくづく今そう感じているところでございます。

知財立国の日本，今後もますますこの協会が腕を振るわなければいけない，そんな時代にあって，ぜひ腕を振るっていただきたいとお願いを申し上げて，謝辞として，私の話を終わらせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。